

平成27年度

学校法人昌賢学園

事業報告書

学校法人昌賢学園

群馬医療福祉大学大学院

群馬医療福祉大学

群馬医療福祉大学短期大学部

群馬社会福祉専門学校

群馬医療福祉大学附属鈴蘭幼稚園

I. 法人の概要

1. 法人の名称 学校法人 昌賢学園
2. 事務所の所在地 群馬県前橋市元総社町 152番地
3. 設置する学校
 - ①群馬医療福祉大学大学院 社会福祉学研究科
 - ②群馬医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科
 - ③群馬医療福祉大学 看護学部 看護学科
 - ④群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部・リハビリテーション学科
 - ⑤群馬医療福祉大学 短期大学部 医療福祉学科
 - ⑥群馬社会福祉専門学校 社会福祉専門課程
福祉保育学科 介護福祉専攻科
社会福祉士通信課程
精神保健福祉士通信課程
介護福祉士実務者研修通信課程
介護福祉士実務者研修通学課程
 - ⑦群馬医療福祉大学附属鈴蘭幼稚園

4. 学生・園児等の数 (平成27年5月1日)

学部・学科名	入学定員	収容定員	学生・園児数
群馬医療福祉大学大学院 社会福祉学研究科	10名	20名	7名
群馬医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科	90名 編入40名	360名 編入80名	404名
群馬医療福祉大学 看護学部 看護学科	80名	320名	370名
群馬医療福祉大学・リハビリテーション学部 リハビリテーション学科	60名	180名 (3年生まで)	264名
群馬医療福祉大学短期大学部 医療福祉学科	80名	160名	89名
群馬社会福祉専門学校社会福祉専門課程 福祉保育学科 介護福祉専攻科 社会福祉通信課程	50名 80名 200名	100名 80名 400名	92名 30名 122名
群馬医療福祉大学附属鈴蘭幼稚園	90名	280名	84名

5. 役員

理事 8人 監事 2人 評議員 19人

6. 教職員の状況

(平成27年5月1日)

	人員数		
大学院教員	4名	短期大学部教員	11名
兼任講師	12名	兼任講師	16名
		事務職員	4名
大学教員(社会福祉学部)	37名	専門学校教員	9名
兼任講師	33名	兼任講師	21名
事務職員	14名	事務職員	5名
大学教員(看護学部)	30名	幼稚園教員	10名
兼任講師	64名	事務職員(運転手含む)	4名
実習補助教員	15名		
事務職員	7名		
大学教員(リハビリテーション学部)	16名	合計 常勤教員	117名
兼任講師	12名	事務職員	37名
事務職員	3名	常勤教職員合計	154名
		兼任教員	158名

7. 土地及び建物の状況

① 土地の状況

(単位:m²)

部 門	法 人	群馬医療福祉大学	短期大学部	群馬社会福祉専門学校	附属鈴蘭幼稚園	合 計
校 地	1,847.12	18,451.00	15,360.39	2,413.44	4,059.40	42,182.35
合 計	1,847.12	18,451.00	15,360.39	2,413.44	4,059.40	42,182.35

② 建物の状況

(単位:m²)

部 門	法 人	群馬医療福祉大学	短期大学部	群馬社会福祉専門学校	附属鈴蘭幼稚園	合 計
校 舎	291.49	10,964.93	4,943.00	2,282.42	1,890.12	20,371.96
合 計	291.49	10,964.93	4,943.00	2,282.42	1,890.12	20,371.96

③ 土地建物借用状況

(単位:m²)

	法 人	群馬医療福祉大学	リハビリ学部・専門学校	看護学部	合 計
校 地				26,222.00	26,222.00
校 舎			4,744.38	11,477.00	16,221.38
駐 車 場		4,699.28			4,699.28
合 計		4,699.28	4,744.38	37,699.00	47,142.66

Ⅱ. 部門事業報告

「企画調整室報告」

地域に開かれた学園として（幼稚園 専門学校 大学）

本学園では、地域に開かれた学園として地域貢献、地域連携活動を積極的に進めております。

少子高齢社会を迎え、地域の方々の医療や福祉、特に「健康」への意識が高まり、予防医学や予防介護といった知識・技術が求められています。企画調整室ではそのようなニーズに対応するため、本学園の持っている知的財産を地域へ還元することを目的とし、地域の方々が気軽に参加できるような講座を開講しております。

大学では3年前から、前橋商工会議所・藤岡市が主催する「まちなかキャンパス」に参加し、子どもからお年寄りまで幅広い世代の方が交流し、語り、楽しめる学びの場を提供しております。この「まちなかキャンパス」を通じて、地域の皆様をつなぐ架け橋として、長年培ってきた教育と研究を土台に、地域のニーズに応えられる大学としてその役割を果たしたいと願っています。

その他、近隣の公民館においては子育て支援講座、高齢者教室を定期的を実施したり、教員が施設や学校に出向き講座を実施したりする出前講座も積極的に実施しています。

さらに、今日の少子高齢社会において生ずる種々の問題に対して研究・調査及び情報提供を中心に地域の方々の相談事業にも対応しています。

群馬社会福祉専門学校では社会人の学び直しニーズに対応するため、社会福祉士通信課程の設置や、介護福祉士筆記試験対策講座等を開講しています。E-Learning を使用し、受講生の学習進度に応じて、主体的に学べることに大変好評を得ております。

附属幼稚園では、鈴蘭幼児教育センターを設置し、子育て支援や育児相談等に応じています。地域貢献活動として元総社地区文化祭や前橋まつりに参加し、秋には幼稚園バザーを行い地域の方々との交流を深めております。

このような活動を通して、開かれた学園として地域の方々が気軽に往来できる学園づくりを進めております。

以下は27年度の実績報告となります。

1 まちなかきゃんぱす 前橋商工会議所連携事業 29 講座開催 述べ 456 名参加

群馬医療福祉大学は前橋商工会議所連携事業としてまちなかキャンパスを開催し、地域の方々を対象に、長年培ってきた教育と研究を土台に、地域のニーズに応えられる大学としてその役割を果たしたいと願っています。

少子高齢社会を迎え、地域の方々の「健康」への意識が高まり、予防医学や予防介護といった知識・技術が求められています。そのようなニーズに対応するため、本学の持っている知的財産を地域へ還元することを目的とし、地域の方々が気軽に参加できるような講座を開講いたしました。

2 論語の学堂 講座開催 述べ 160 名参加

本事業は本学の歴史及び建学の精神に基づき、平成 24 年 3 月から開始した事業である。本学の淵源は宝徳元年(1949)に遠祖長尾昌賢が学問所を開設したのに始まり、世世漢学の教授を以て地域教育に貢献しています。

古来、漢学と呼び習わされている学問の中心にあるのが四書・五経と総称される中国の古典であり、就中日本では古代より論語が重んじられてきました。そして本学は論語の「仁」を建学の精神とし、学生へ全人教育を行っています。福祉は特に人と人との関係構築が重視される分野であり、人間関係を築く上で最も大事なのが他者を己の如く感じる心、要するにそれが「仁」である。福祉と論語は決して無関係ではありません。この論語の精神、つまり「仁」を広く社会に還元するために、万を期して本年(平成 25 年)より通年講座として開始いたしました。

3 国境なき医師団 護講演会 参加者 350 名

11 月 14 日(土)今回は、国境なき医師団の田辺康氏をお招きし、「世界各地の医療的支援の活動状況について」お話し頂きました。

国境なき医師団は、海外の紛争地や難民キャンプ、自然災害や感染症の流行地で、緊急の医療・人道援助を提供する非営利団体です。医療に手の届かない人びとがいる地域に、できるだけ早く赴き、ケアが必要な人たちを一切差別せず中立・公平に手を差し伸べ、あらゆる権力から独立して活動しています。

実際の活動内容や、現場で目撃した危機的状況について講演して頂きました。



4 公開講座 27年10月～11月予定 733名

本講座は、本学における教育・研究の成果を広く社会に開放し、地域社会の福祉と医療の向上に資することを目的に実施いたします。25年度も大学院の社会福祉学研究科、大学の社会福祉学部、看護学部、リハビリテーション学部、短期大学部の介護福祉学科等の教員が講師として、講座を開設いたしました。



5 公開授業 7月18日(土)実施 171名参加 (前橋70名 看護57名 リハ44名)

学校法人昌賢学園（以下本学）で学んでいる学生たちは、それぞれの夢や目標に向かい、希望実現のために勉学に勤しんでおります。

そこで学生たちがどのような学習を行っているか実際の授業の参観と、さらには保護者の方に授業を体験していただき実体験を通じて本学の教育の実際をご理解いただく場とするとともに、本学の教育に対する希望などを拝聴する機会とし、本学の教育内容の充実・強化の一助にすることを目的として開催しました。

6 リハビリテーション研修会 平成27年11月28日(土) 参加者250名

平成27年11月28日(土)前橋新適塾第3回ミーティングが、前橋さくらホテルにて盛大に開催された。参加者は250名であった。前橋工科大学ならびに群馬医療福祉大学の学生、研究者および教職員で埋め尽くされ、空席はまばらであった。プログラムは、講演1として慶應義塾大学 医学部 リハビリテーション医学教室の辻 哲也先生に「がんリハビリテーション～周術期から緩和ケア主体の時期まで」を、講演2では東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 川淵 孝一先生に「超高齢社会における医療・介護の在り方 ～医療・介護の質向上と効率化の同時達成を目指して」ご講演をいただいた。パーティ - に富んだ話題を提供され学びの機会を作って下さったことに感謝したい。



7 高大連携事業 単位認定授業開講 8/3～8/5 12/25～12/26 16名参加

群馬医療福祉大学は、「地域に開かれた大学」を目指しており、その取り組みの一つとして地域の高等学校のとの連携を進めております。

高校時代に本学が実施する高大連携授業科目を履修することにより、社会福祉に関する内容を理解することができ、進路の選択に役立つこと、及び高校生活の充実、学習意欲の一層の向上に寄与することを目的として実施いたしました。

なお、この高大連携授業により習得した単位は、本学に入学した場合は本学で修得した単位として認定しております。



8 東公民館家庭教育学級連携事業 もっと！すくすくおやこスクール 30名参加

子育てについてのコツや困ったときの対処法について学ぶとともに、日ごろ思っていること悩んでいることなどについて情報交換し、親子ともに楽しく健やかな毎日を応援します！みんなで一緒に楽しく子育てしませんか？ 群馬医療福祉大学の先生方が講師として色々なことを実践しました。

期間 平成 27 年 12 月～1 月

時間 10 時～12 時

会場 前橋市 東公民館

参加者 未就園児をもつ保護者とその子



9 東公民館 高齢者教室 参加者 述べ 30 名

高齢者と地域のふれあいの輪を結び、お互い学びあうとともに、こころ豊かな生活（健康・仲間づくり等）づくりを目的に地区内在住の概ね 60 歳以上の方を対象に実施。健康増進と地区の交流や東地区老人クラブ連合会の事業（学習活動）として位置づけられています。本学介護福祉学科の教員が講師として講座を担当いたしました。

7 月 9 日（木） 13:00～15:15

○記念講演

「老老介護と介護保険サービス」

講師 群馬医療福祉大学短期大学部 教授 片桐 幸司

○参加者 248 名



○「食事に関する介護のコツ」

講師 介護福祉学科 助教 矢嶋栄司
辻 志帆



10 自治体や団体との連携と人的資源(マンパワー)の提供

本学はボランティアや環境美化活動を通じた教育を重視し、学生の主体性を重視した教育を実践しています。特にボランティア活動は単位化し必修科目としています。以下のとおり26年度の地域貢献を行いました。

・地域貢献活動への取組

前橋市 前橋まつり、前橋七夕まつり、前橋シティマラソン
前橋あそか会 あそかまつり、やる気の木プロジェクト学生派遣
前橋ヒルクライム、赤城大沼マラソン



藤岡市 藤岡市民活動フェスティバス、藤岡子どもフェスティバス
藤岡市民討議会、藤岡まつり、藤岡フェスタ
藤岡健康福祉祭、産学官連携藤岡まちづくりシンポジウム

群馬県 群馬県障害者スポーツ大会、リレーフォーライフジャパン、
おくたの元気隊、みやま養護学校



11. 神流町 おくたの元気隊

おくたのげんき隊活動報告会

中山間地域と学生との交流事業である「おくたのげんき隊」の活動について看護学部の学生20名が参加している。過疎化と高齢化が深刻な奥多野地域に、世代間交流を生み出すことを目的とし、学生たちは1年間、高齢者サロンや地域の行事に参加している。



12. 世界遺産 高山社での活動

本学が目指す地域密着型の実学教育として、地域と大学が協働して、地域の特性を活かしたまちづくり、コミュニティづくり、地域活性化を目指しております。

この度、本学が所在する藤岡市は「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産のひとつである高山社跡が世界遺産に登録されました。本学ではこの世界遺産・高山社において藤岡市と連携し高山社跡において、本学学部の特徴を活かした活動を展開し藤岡市の発展、地域活性化に寄与して参ります。

学生は事前に高山者跡に関する基礎知識を学び、学生案内人として見学者をお出迎えしたり、駐車場のごみ広い等の活動をしたりしています。さらに看護学部生は学びの特色を活かし、健康チェック・血圧測定を行い、参加者の健康を気遣いながら交流を図りました。

13. 海外研修報告

研修期間 2016. 2. 28(日)～2016. 3. 4(金)

参加学生50名 引率4名

訪問先アメリカ合衆国 ハワイ州 ホノルル

(ハワイ大学、介護施設マルヒア 病院クアキニメディカルセンター)



群馬医療福祉大学では、グローバル人材育成推進事業の一環として、海外研修プログラムを2016年2月28日(日)から3月4日(金)までの6日間にわたり実施した。これは学生が海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることで、グローバルな視点で物事を捉える能力を身につけさせることを目的としたものである。現地研修では、担当者や多くの人々と接し、異国の風土、文化に直接触れることができました。普段の授業では得られない貴重な体験を得ることができた。

特にハワイ大学では「アメリカと日本の福祉事情について」「アメリカ合衆国の医療システム」についての講義を受講でき大変有意義なものとなった。

将来、医療福祉人として活動する際に活かせるような医療福祉に関するグローバルな視点を持てるようになったこと、ハワイと日本という異文化交流の中で、自分たちが成長していくための未知の可能性を探求することができたと考える。

その日の午後はハワイ大学の学生と交流を図りながら、英語でコミュニケーションを取りながら市内への散策へと出かけていった。これも学生達にとっては貴重な経験となったようである。

また、クアキニメディカルセンター(病院)・マルヒアナーシングホーム(高齢者施設)の視察では、レクチャーの後、施設を見学させていただいたり、利用者さんと交流させていただいたりと楽しい時間を過ごすことができた。

現地での研修は、天候にも恵まれ、学生の熱心な取組と現地スタッフによるわかりやすい説明によりスムーズに実施することができた。参加した学生には、今回の成果と貴重な体験、研修で得られたコミュニケーション能力を生かし、将来、グローバル化を意識した人材として一層活躍されることを期待したい。



「教務部門報告」

①短期大学部

介護福祉学科を医療福祉学科に名称変更し、従来の介護福祉士養成に加え、医療事務・医療秘書の養成を開始、授業では群馬県医師会より医師8名を派遣していただくなどして実施。1年次2月に10日間の病院実習を実施。新年度は、医療事務・秘書コースに25名が入学予定。従来の介護福祉士を養成するコースには計29名が入学予定。

②社会福祉学部

平成27年10月16日、文部科学省による教職課程実地視察。講義見学、施設見学、質疑応答等があり、講評をいただく。いただいた意見を踏まえ、今後の運営に反映していく方針。

リハビリテーション学部との学部間科目連携の協議を重ね、新年度より合同授業を開講予定。それに伴う教育課程の変更（学則変更）を文部科学省に届出。

③看護学部

平成28年3月31日 看護学部の文部科学省によるAC（アフターケア）期間終了。今後、看護学部の教員人事において自主的な運営が可能となる。大学設置基準を遵守し、看護学部の教員採用・昇任において、授業運営に適切に対応できる教職員人事を実施する。

④リハビリテーション学部

平成28年3月31日 リハビリテーション学部の完成年度を終了。今後、カリキュラムや人事など多岐に渡って自主的な運営が可能となる。この4年間の教務運営面の反省を踏まえ、社会の動向を把握しニーズに対応できる開設科目の見直しを進める。

⑤専門学校

幼稚園教諭2種取得のため、玉川大学「専修学校特別プログラム」を提携し、通信教育にて資格取得が可能となる。幼保一元化に伴い不可欠な、保育士+幼稚園教諭の資格取得が可能となる。

社会福祉士通信課程においては、学生募集の範囲を拡大するため、各地で出張入学説明会を開催した他、本学でのスクーリングに加え、地方スクーリング会場も増設。

⑥高大連携特別履修制度

平成27年度まで、社会福祉学部と短期大学部にて「高大連携履修制度」を設けて、大学で実施する授業（2単位・15コマ）に高校生が参加し、入学後にその単位を認めていたが、新年度からは看護学部・リハビリテーション学部においても同制度を導入することとして準備を進めている。

⑦群馬医療福祉大学 海外研修旅行

平成28年2月28日～3月4日にグローバル人材育成推進事業の一環として、ハワイへの海外研修プログラムを実施し、大学生と短大生の希望者が参加した。現地の病院や福祉施設の視察、ハワイ大学での研修や学生との交流と大変有意義な時間を過ごした。研修の成果をまとめ、新年度はさらに有意義な研修となるよう検討を進める。また、専門学校でも実施を検討している。

「入試広報部門報告」

広報活動

- ① 高校訪問（北関東・東北・甲信越・北陸の高等学校を中心） ②進学ガイダンス
 ③ 高等学校教諭説明会 ④オープンキャンパス（学校見学会・一日体験入学）
 ⑤ ホームページ、LINE、Facebook ⑥進路情報誌の掲載 ⑦Web 媒体 ⑧出前授業
 ⑨新聞広告（主に上毛新聞） ⑩FM 群馬

大学（社会福祉学部・看護学部・リハビリテーション学部）において、一定の志願者を集め、入学者数においても平成 27 年 10 月 1 日施行された「大学、大学院、短期大学及び高等専門学校の設定等に係る認可の基準の一部改正」に伴う定員超過率内（1.15）で確保することができた。短期大学部においては昨年度と同等数確保できたものの、定員には達しなかった。

看護・医療系志望者多い中、福祉・介護の魅力を如何に伝えていくかが今後の大きな課題である。同時に本学園の特色や取り組みについて、パンフレットやホームページを媒介にして明確に打ち出していきたい。さらに他大学との差別化を図るため、本学園の教育を在学生・卒業生を通して理解していただくための企画立案をしていかななくてはならない。

平成 27 年度オープンキャンパス参加者数

	27 年度	前年対比	前年度 (26 年度)
前橋キャンパス 社会福祉学部 短期大学部	562 名	▲50	612 名
藤岡キャンパス 看護学部	561 名	+49	512 名
本町キャンパス リハビリテーション学部	404 名	+42	362 名
群馬社会福祉専門学校	169 名	▲45	214 名
合計	1696 名	▲4	1700 名

入学者状況（平成 28 年度 4 月入学者数）

	定員	平成 27 年 4 月	前年対比	前年度 (26 年 4 月)
大学院	10 名	1 名	▲4	5 名
大学 社会福祉専攻	50 名	47 名	▲2	49 名
大学 子ども専攻	40 名	40 名	▲1	41 名
大学 編入	40 名	9 名	▲16	25 名
大学 看護学科	80 名	91 名	▲4	95 名
大学 理学療法専攻	35 名	40 名	+1	39 名
大学 作業療法専攻	25 名	27 名	—	27 名
短大 医療福祉学科	80 名	53 名	▲1	54 名

専門学校				
福祉保育学科	50名	45名	▲4	49名
介護福祉専攻科	80名	29名	▲22	51名
社会福祉士通信課程	200名	69名	▲1	70名
別科（実務者研修「通学」）	} 250	9月開講	—	—
別科（実務者研修「通信」）		7月・1月開講	—	—

「就職部門報告」

◇学生一人ひとりの希望する先への就職ができるように、『就職指導』を授業として開講し、きめ細かな就職支援や求人資料等、豊富にそろえ、実践的なアドバイスも交えとともに現場での即戦力になるためのサポートを実施しています。

インターンシップの一貫として『ボランティア活動』を取り入れ福祉施設等でのボランティア活動に積極的に取り組むことを進めることで進路・就職に対する動機付け、就職後のミスマッチを防いでいます。

学生のキャリアに対する意識の向上及び就職指導の一環として行う支援講座や研修は、変化する社会情勢の中でも十分な就職活動が行えるようバックアップ体制を敷いており、資格取得対策に関しては学生を支援する資格取得講座を数多く開講しています。この資格取得講座の受講者、各種資格試験の合格者は年を重ねる毎に増加しており、公務員（公立保育園を含む）に現役生が合格するとともに、教員採用試験の合格者も数多く出ています。

また、本学のキャリアサポートセンターでは卒業後のキャリア支援も行っており、職場における問題、資格取得及び再就職の支援等、生涯にわたるキャリア形成においての支援も行っています。

◇社会福祉学部、短期大学部、群馬社会福祉専門学校、リハビリ専門学校、の就職状況は、ここ数年 100%の実績を納めています。

- ・社会福祉学部社会福祉専攻の就職場所は、高齢者関連施設 37%、障がい者(児)施設 25%、病院 6%、福祉関連機関団体(社会福祉協議会・社会福祉事業団) 5%、児童関連施設 12%、教員 5%、一般企業 10%
- ・社会福祉学部こども専攻の就職場所は、保育園や幼稚園 48%、障がい者(児)施設 14%、児童関連施設 14%、高齢者関連施設 2%、一般企業 11%、小学校教諭 11%
- ・看護学部の就職場所は、病院 98%、養護教諭 2%
- ・リハビリテーション学部理学療法専攻の就職場所は、病院 100%
- ・リハビリテーション学部作業療法専攻の就職場所は、病院 91%、高齢者関連施設 9%
- ・群馬社会福祉専門学校介護福祉専攻科の就職場所は、高齢者関連施設 73%、障がい者(児)施設 11%、児童関連施設 3%、医療機関 3%、一般企業 3%、進学 7%
- ・群馬社会福祉専門学校福祉保育学科の就職場所は、認定こども園 45%、保育所 22%、障がい者(児)施設 11%、放課後デイサービス 11%、幼稚園 11%

Ⅲ. 財務の概要

施設整備の主な整備状況

大学

建物（附属設備）	333,000円	学長室ガス工事
教育研究用機器備品	129,276円	就職支援求人システムPC
その他の機器備品	197,640円	マイナンバー管理PC
図書	864,380円	
車両	7,187,290円	乗用車（取替）
	501,600円	スクールバス（買取分）

大学院

図書	10,672円	
----	---------	--

短期大学部

建物（附属設備）	48,384,000円	1号館空調機設備更新
教育研究用機器備品	274,050円	実習室流し台
	4,259,974円	医療的ケア機器備品
	540,000円	医療秘書レセプト授業用サーバー
図書	192,084円	

看護学部

車両	551,880円	スクールバス（買取分）
教育研究用機器備品		
その他の機器備品	794,880円	学長室 机・椅子
	918,000円	事務室印刷機

専門学校

建物（附属設備）	1,015,200円	無線LAN配線工事
	1,790,640円	図書室外空調設備工事
教育研究用機器備品	156,060円	就職支援求人システムPC
ソフトウェア	540,000円	教材・Eラーニングシステム

リハビリテーション学部

教育研究機器備品	905,082円	実習室器具
	129,276円	就職支援求人システムPC

幼稚園

教育研究機器備品	537,840円	英語授業用機器備品
----------	----------	-----------

公認会計士と監事の監査報告並びに・資金収支の状況（経年推移）・消費収支の状況（経年推移）・貸借対照表（経年推移）・財務比率（経年推移）は別掲のとおりである。また平成27年度の財務概要としての施設整備状況は前記のとおりである。特に今年度は学生生活環境の改善としては1号館の空調機設備を一新して熱中症対策を重点に整備したところである。リハビ

リハビリテーション学部は完成年度となり社会福祉学部・看護学部とともに入学定員・収容定員を的確に確保できており今後も引き続き定員確保は十分に見込まれる。

また、主たる経常収入としてリハビリテーション学部・看護学部もともに完成年度を経たが学生生徒等納付金収入は着実に確保できている。経常経費依存率も数年平均的にほぼ90%台で推移しており、学生生徒に対する教育的還元は行き届いていると思われる。学部増設等が続いたことから繰越消費収支超過額が数年続いていたが、繰越消費収入超過額は近年着実に改善されてきている。資金的にも外部借入金等に頼ることなく健全な財政運営を継続できる傾向である。次年度も財務状況は良好に維持し、大学法人としての教育研究目的を達成するために必要な財政基盤をしっかりと確保し、継続的に収支バランスのとれた運営を目指して行く方針である。